

志す宇宙は無限 6月号

発行：楠隼高等学校 宇宙部

H3 2号機 だいち4号 搭載見送り

今年度中の打ち上げが予定されている日本の新たな主力ロケット「H3」2号機について文部科学省は24日、初号機の打ち上げ失敗を受けて当初の計画を変更し、開発中の地球観測衛星「だいち4号」を搭載せずに打ち上げる方針を示した。軌道に人工衛星を投入できる性能を確かめるための計測器などを搭載して打ち上げる予定。コストや計画の遅れよりも安全な打ち上げに全力を注ぐ形となった。

日本の新たな主力ロケット「H3」初号機は3月7日、種子島宇宙センターから打ち上げられたが、2段目のエンジンが着火せず打ち上げに失敗し、搭載していた地球観測衛星「だいち3号」が失われた。初号機から大型人工衛星を搭載したことに対し、世間から様々な声が上がっていた。
「H3」2号機の打ち上げ成功を祈っている。

若田宇宙飛行士 「生涯現役で頑張りたい」

去年10月から国際宇宙ステーションに長期滞在し、日本人最多となる5回目の宇宙飛行を経験した宇宙飛行士の若田光一さんが24日、帰国後、初めて記者会見を開き、自身の活動報告とともに今後の抱負を述べた。

自身初の船外活動などを振り返り、「目の前に広がる美しい地球を見ながら、真空の環境で船外活動ができたという喜びは、本当にこの仕事を続けてきてよかったと思える瞬間だった」と話した。「今後は生涯現役で頑張っていきたいし、若い世代の宇宙飛行士が、さらに先のフロンティアに挑戦していくためのシステムの運用や開発にも貢献していきたい」と抱負を語った。

若田光一宇宙飛行士の今後の活躍に注目している。一度はお会いしてみたい方の一人だ。

宇宙日記

宇宙関連のグッズには様々なものがあります。今回はその一つ「宇宙のグミ」を紹介いたします。「宇宙のグミ」は高知県の「ひまわり乳業」が行った乳酸菌の宇宙実験で、ロケットに乗って宇宙から生還した乳酸菌の子孫たちをおいしいグミキャンディにした商品です。実際に食べてみました。最初は不思議な味ですが、すぐにまろやかな味になります。



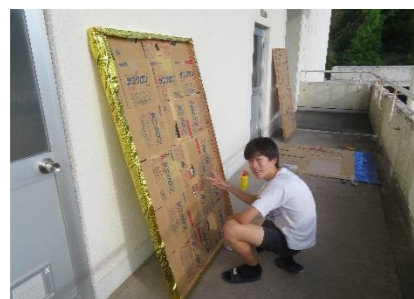
↑「宇宙のグミ」

この商品の売り上げの一部は、一般財団法人ワンアースに寄付され、東日本大震災復興支援事業「きぼうの桜」に役立てられます。

「きぼうの桜」とは、8か月間宇宙を旅した日本屈指の名桜の直系子孫「宇宙桜」を津波到達点上に植え、千年風化しない避難の目印として、そして宇宙からも見える復興のシンボルとして、この星の子孫たちへ残す壮大な事業です。ぜひ一度、食べてみてください。

宇宙日記 Vol.2

文化祭に向けて、モデルロケット製作と巨大展示作品（詳しくは当日のお楽しみ）製作に追われています。今年度の文化祭のテーマは「繋」。新型コロナウイルス感染症拡大前と今とを繋ぐというコンセプトです。皆さんの想いをロケットに繋ぎ、発射装置をロケットに繋ぎ、大空へ繋がります。毎年、梅雨の影響を受け、大雨で打ち上げのデモンストラーションができません。今年度こそは、外で打ち上げたいです。皆さん、晴れを祈ってください。また、今年度は一般のお客様も来校できますので、ぜひ、ご近所お誘いあわせの上、ご来校ください。各学年、部活動、有志によるユニークな発表ばかりです。男子校の熱く燃えた文化祭をご覧ください。文化祭は6月17日（土）9時より終日開催の予定です。



↑巨大展示作品を製作中

やってみよう！身近な宇宙

「行こうよ！ 宙の家」

肝付町の観光拠点施設「宙の家」は、内之浦宇宙空間観測所から1分ほどのところにある、お土産ショップです。宇宙・ロケットグッズはもちろん、肝付町の特産品やロケット情報まで取り揃えています。

先日、プライベートで行ってみました。宇宙関連のグッズがたくさん！キーホルダーから宇宙食まで……。本当に面白かったです。

「肝付町にまつわるお土産を探したい」「ドライブ、ツーリング途中にちょっと休憩」「地元ならではのロケット情報を聞きたい」「肝付町のデートスポットを聞きたい」など、地元の方から詳しい情報を入手できます。店内に入っすぐ左のところにもご注目を。目印は大きなパラポラアンテナのメニュー！ぜひ行ってみてください。



宙の家

営業時間：10:00～16:30
定休日：毎週水曜日
TEL：0994-45-7371
住所：〒893-1402 鹿児島県肝属郡肝付町 南方1870-10
駐車場：あり(約30台)

宇宙からのささやき

人の価値は努力の量で決まる。

若田光一

自分の価値を決めるのは自分以外の人。自らの価値をわかってもらうためには努力し続けるしかないのではないだろうか。努力し続け、他人に評価される人間でありたい！

祝 10回目 + 1回目！！

昨年8月より発行を始め、早くも11回目になりました。記念すべき10回目の発行のときに盛大に祝おうと考えていたのですが、気づけば11回目になっていました。本紙を作成するなかで、さまざまな方と出会い、声をかけていただきました。ここまで続けられたのは、皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。皆さまの声に答えることができるよう、頑張りますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

楠隼高等学校 宇宙部

宇宙の声

「地球外生命体」、俗に言う「宇宙人」は本当にいるのでしょうか。「はやぶさ2」で話題になった「りゅうぐう」では生命の源であるアミノ酸が見つかっています。しかし、科学技術が進歩した現代でも生命体が発見されていないのはとても不思議です。では、皆さんは宇宙人と聞いてどのようなものをイメージしますか。私はUFOに乗って着陸地点を明かりで照らしながら降りてくる感じですか。ほとんどの方が似たようなものをイメージしたのではないのでしょうか。皆さんが想像した宇宙人は誰が考えたのでしょうか。

古典の授業で「竹取物語」を扱いました。かぐや姫を月から迎えに来るシーンです。本文には次のように書かれています。「宵過ぎて、子の時ばかりに、家のあたり、昼の明さにも過ぎて、光りたり。望月の明さを十合はせたるばかりにて、在る人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。大空より、人、雲に乗りて下り来て、土より五尺ばかり上がりたるほどに立ち連ねたり。」

日本最古の物語とされているこの作品にも現代の宇宙人と共通性のある描写がされています。この時代から日本では宇宙人について考えられていたのでしょうか。そして今でもこうしたイメージが国民に根付いていることはとても考え深いです。

未知のものを想像し、探求し続けることは、はるか昔から、様々な時代を経て現代にも受け継がれています。私たちは、祖先の想いを胸に探求し続けなければなりません。そして後世につながるなければなりません。現段階では唯一、生命が存在する地球で生きる私たちの使命ではないでしょうか。